

経済マンスリー [原油]

～原油価格は一時 4 年振りの水準に低下～

1. 価格動向

原油価格は続落、
12 月 5 日には 40
ドル割れに迫る

原油価格（WTI ベース）の下落が続いている。11 月 20 日には 49.62 ドルと 2005 年 5 月以来の 50 ドル割れとなったが、OPEC（石油輸出機構）の追加減産観測を背景に、月末にかけて 54 ドル台へ上昇した。しかし、世界景気後退懸念が根強い中、11 月 29 日の OPEC 緊急会合で減産が見送られたことから、原油価格は大きく下落、12 月 1 日には再び 49 ドル台となった。その後、NBER（全米経済研究所）により米景気後退入りが宣言されたこと、米雇用統計の悪化等を受けて、原油価格は続落し、5 日には 40.81 ドルと 40 ドル割れに迫った。これは 2004 年 12 月以来、4 年振りの水準である。足元では 40 ドル台前半で推移している（第 1 図）。

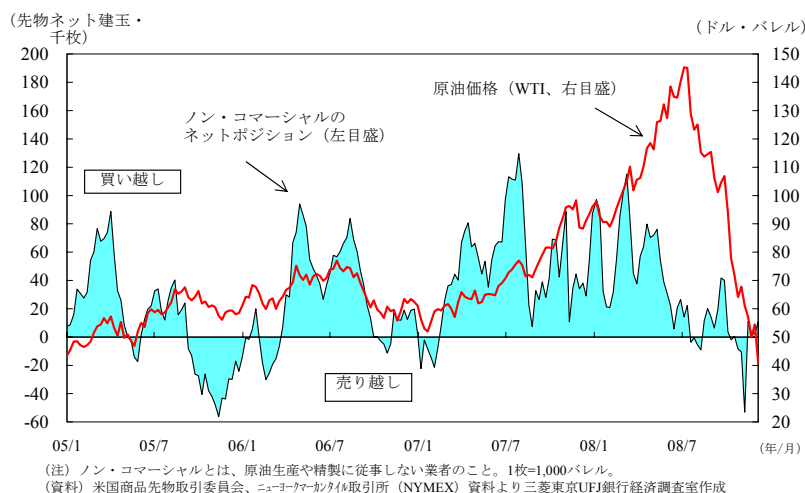
第 1 図：原油価格（WTI 期近物、終値）の推移



投機筋のポジションは小幅な買い越し

原油先物市場の投機筋のポジションは10月末から3週連続で売り越し、11月11日時点では▲52,984枚と3年振りの売り越し規模となった。その後は、小幅ながら買い越しが続いている（第2図）。また、減少傾向にあった総建玉（未決済残高）は、12月に入り増加に転じている。

第2図：原油先物の投機筋のポジション

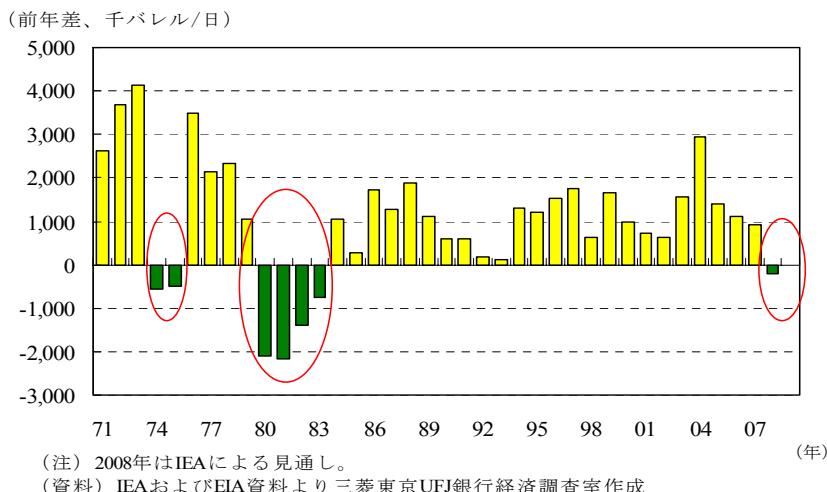


2. 需給、在庫動向

今年の世界の原油需要は、25年振りの減少となる見込み

グローバル金融危機が深刻化するなか、国際エネルギー機関 (IEA) は世界の原油需要を4ヶ月連続で下方修正しており、今年については前年比▲0.2%と減少に転じるとの見通しを発表した。第二次石油危機後に需要が落ち込んだ1983年以来、25年振りの減少となる（第3図）。先進国の原油需要は低迷が続いており、10~12月期は一段と落ち込みが大きくなると見込まれている。

第3図：世界の石油消費量の増減



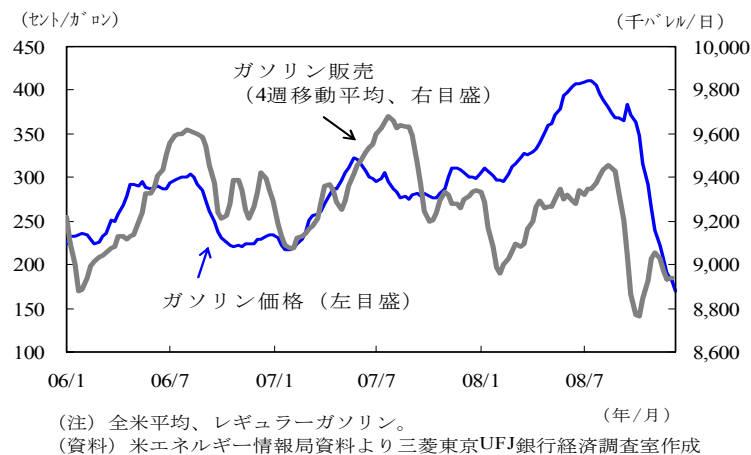
米国のガソリン販売は大幅低迷

米国は景気後退局面にある中、原油需要も大幅に減少しており、今年の原油需要は日本や欧州よりも大幅に落ちこむと見込まれている。また、足元ではガソリン価格の大幅下落にもかかわらず、ガソリン販売は大きく減少している。例年、5月末～9月初のドライブシーズン以外の時期には、ガソリン販売は減少する傾向にあるが、足元の水準は前年を大きく下回っている（第4図）。

新興国の原油需要も鈍化する見込み

一方、新興国・発展途上国（非 OECD 諸国）の原油需要は、IEA によれば 10～12 月期に前年同期比+2.3%と、前期（同+4.7%）から伸びが鈍化すると見込まれている。注目される中国の原油需要は、月次ベースで見れば 10 月まで堅調を維持しているものの、足元の各種経済指標の悪化を踏まえると、10～12 月期に鈍化は避けられないとみられる。

第4図：米国のガソリン販売と価格



OPECは11月の緊急会合では追加減産を見送り

供給についてみると、OPEC（石油輸出機構）は10月24日開催の緊急会合において日量150万バレルの減産を決定した（イラクとインドネシアを除くOPEC11ヶ国の生産枠：日量2,731万バレル。11月から実施）。11月29日にも緊急会合が開催されたものの、追加減産は見送られた。12月17日に開催される臨時総会では、追加減産が決定される可能性が高いとみられており、世界的な需要減少を踏まえて、価格を下支えすべく、日量200万バレル程度の大規模減産が協議されるとみられている。また、非加盟国の中で最大の産油国であるロシアも、OPECとの協調減産の姿勢を示していると伝えられている。

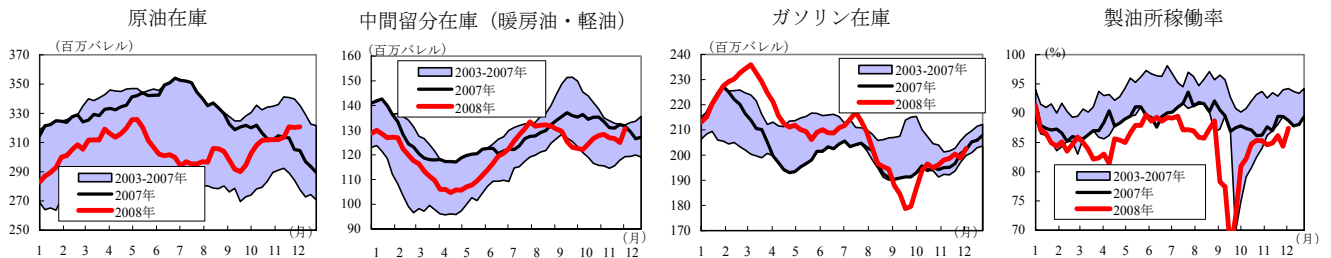
12月17日の臨時総会で追加減産が決定される可能性高い

米国の原油在庫は増加傾向

世界最大の消費国である米国の原油・石油製品在庫状況についてみると、製油所稼働率は9月のハリケーン上陸時に急低下して以降、回復傾向にあるが、石油製品需要が低迷していることから、原油在庫は増加傾向にある。ガソリン在庫は、不需求期の中にあつて景気後退による需要

低迷も加わって、増加傾向にある（第5図）。

第5図：米国のエネルギー在庫の推移



(注) 〓は、2003年から2007年間の最大値と最小値。

(資料) 米エネルギー情報局 (EIA) 資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

3. 価格の見通し

原油価格は軟調推移が見込まれる

12月17日のOPEC総会で減産が決定される可能性が高いが、金融危機を受けて世界景気後退懸念が高まるなか、市場の需要減少観測は根強い。原油価格は引き続き軟調に推移し、40ドル台での展開となろう。

国際エネルギー機関 (IEA) と米エネルギー省 (EIA) はいずれも今年の世界原油需要の減少を見込んでいるが、来年については見方が分かれており、前者の需要増に対し、後者は需要減を予想している。世界の原油需要の行方のカギを握るのは、米国と中国の景気動向である。目先の原油価格の動きは、米国における危機対策やオバマ次期大統領の景気対策、中国の景気動向等に反応するとみられ、対策や経済指標次第では一時的にさらに下振れる局面もあろう。

(山口 綾子、篠原 令子)

照会先：経済調査室 (次長 佐久間) TEL:03-3240-3204

E-mail: koji_sakuma@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページ<http://www.bk.mufg.jp>でもご覧いただけます。